

Garrard 401 の再構成(11) —フォノイコライザーの交換(1)—

1. はじめに

前報(9)においてフォノイコの 4718 信楽から Brooklyn DAC+への変更を行いました
が、今回、さらにフォノ入力のある三栄無線のマランツ 7 タイプキットプリアンプ
を整備して使用します。

2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

三栄無線のマランツ 7 タイプキットプリアンプは、しばらく別宅においてあってメ
インシステムでは使用していませんでしたが、持ち帰って復活させ、Garrard 401 の
[ZYX の R100 -EX](#) と組み合わせてみます。

再生経路は次のとおりとします。Brooklyn DAC+は MM 入力ではなく、LINE 入力
を使用します。

Garrard401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス
出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→マランツ 7 タイプキットプリアンプ (L
フォノ入力→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→Brooklyn DAC+
(ライン入力→バランス出力端子)→(バランスケーブル)→(P&フェーダー(バランス
入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングル
アンプ



音源はお馴染みの下記の盤です。

バッハ：チェンバロ協奏曲 ピノック指揮 English Concert

ARCHIV 28MA 0020 日本 POLYDOL 盤

ファリャ：三角帽子 アンセルメ指揮スイスロマン

LONDON SLC-1138

ミトマニア ベーレン・ゲスリン

harmonia mundi KUX-3248-H (Deutsche)

愛と自然の歌 倍賞千恵子

キングレコード SKA-104

3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

何とか音出しができましたので、上記のアナログ盤を試聴してみました。

一聴して、真空管プリアンプらしい柔らかな音がします。

このプリアンプとしては、以前の印象に比べて格段の音質向上が認められましたが、Stage1030、アナログアキュライザー、バランスアナログアキュライザーなどの導入や Garrard 401 のアームの変更その他の整備の総合的な効果が発揮されたものと思われます。

Brooklyn DAC+の LINE 入力でも位相反転が効くかどうかを、上記の聴きなれた盤で試してみたところ、LINE 入力でも位相反転が働くことを確認しました。ミトマニアは正相で、その他は逆相でした。

4. まとめ

三栄無線のマランツ 7 タイプキットプリアンプのフォノ入力による再生が可能となり、Brooklyn DAC+の LINE 入力での位相反転を確認できました。

以上